

北海之光

11月号 北海道教区報

祝福されよ 主に信頼する人は

エレミヤ書 17章 7節

発行所 北海の光社

001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nshk-hokkaido.jp

http://www.nshk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

レインボープライド／生きていることを祝う

小樽聖公会牧師
旭川聖マルコ教会、深川聖三一教会、
留萌キリスト教会、稚内聖公会管理牧師
司祭 クリストファー 永谷 亮

今からちょうど二五年前、一九九六年六月に、札幌で「第一回レズ・ビ・ゲイ・プライドマーチ札幌」が有志グループにより、主に当事者たちとその支援者によって開催されました。そのパレードは断続的に継続され、現在は「レインボープライド」という名称で行われて、今年は九月一日に二一回目を数えました。

れ、九月に行われたパレードに合わせて「多様性の中的一致」講演会と、「祈りの会」が開催されました。また、北海道教区は教区として「レインボープライド」に協賛し、加えて常置委員会はLGBTに関する課題について教区で理解を広める学習や活動を並行して進めて行く必要を確認しています。

ここ最近ではジェンダーやセクシュアルマイノリティーについての 이슈ーが新聞やメディアでも多く取り上げられるようになり、いわゆる「同性婚訴訟」をご存じの方も多いのではないのでしょうか。教区でもこうした動きへの機運が一部で高まり、「性(性的指向や性自認)」の多様性を尊重し、共に学び合う場として「虹色のはこぶね」という有志グループが立ち上げら

さて、この札幌で行われているパレードの大きな目的は「わたしは『今』ここにいます」「わたしが授かっている変えられない生き方はこうなんです」といった、「セクシュアルマイノリティーの存在の可視化」と社会へのメッセージであり、沿道で見守る人や、遠まきに見るのが精一杯のLGBTの人に、「一緒に歩こうよ」、「もう一人じゃないよ」という励ましと連帯、「すべての人の尊

厳が守られ等しく行政サービスや社会サービスを受けられることを実現」できるように、政治や行政、企業にも声を届けることが大切にされてきたように思います。

一九九四年に東京で最初のパレードを開催した南定四郎さんはこう言います。「パレードは自分たちの生きていくことを祝うことです」と。さらに、「生きていくことを祝うパレード」には「一歩一歩、仲間と歩いているうちに自信がわいて」きたり、「LGBTじゃない人たちも一緒に歩き始め」たりといった不思議な力があるともいいます。

「パレードには小さな一歩を踏み出す勇氣がある」、「人生の重荷を一步の勇氣で軽くする、自分らしさを隠すためのクローゼットのドアを内側から開きつけかけになる」と、出演されたメディアでおっしゃっていました。LGBTパレードはこれまでの約三〇年間、日本各地で、この札幌でも一人ひとりが生きていくことを祝い続けているのです。

最後に、パレードで行われている「バルーンリリース」をご紹介します。みなさんもぜひ想像してみてください。

参加者は出発地点で色とりどりの風船をもらい、それを手にしながら仲間たちと沿道を歩きます。リリースポイントに到着すると、カウントダウンとともに一斉に風船を空に放つのです。風船が一人ひとりの手から離れて空へ上がっていく、いろんな色の風船が風のままに自由に青い空を舞います。どの色もとてもきれいで、いろんな色があるからこそ豊かであることを感じさせます。そこには、風船を持つ手を放すのは自分の手であるとともに、自由に空を舞う風船もまた自分であり、うつむいていた顔を空に向かって上げるといふ意味も重ねることができると思えます。

わたしたちは誰でも、今もそれぞれに風船を手を持ちながら生きています。「わたしらしく生きる」ことが世界中の人びとに実現しますように。



—心の窓をひらく—

福音と私(二五三)

今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか

紋別聖マリヤ教会信徒

サラ エリックソン 久美子



「私の好きな聖句」

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。

ヨハネによる福音書二五章五節

私がクリスチャンとして生きるに至った経緯を語る時、やはり夫であるジェームスとの出会いや彼の家族に触れないわけにはいきません。彼らは一八七八年にスウェーデンから宣教師としてインドに渡り、六年間の宣教活動の後、アメリカ大陸に渡ったエリック・マグナス・エリックソンの末裔です。ジェームスの曾祖父にあたります。そのような家系なので身内には牧師や宣教師が数多くいます。事実ジェームスの父親も牧師ですが、その四人の息子達も全員神学校で学んでおり、そのうち二人が教会の牧師として働いています。

二六歳の時、思うところがあり単身カナダに渡った私

温かく私を受け入れてくれました。私がクリスチャンでないことで何かを言われたりプレッシャーを感じたりした事は一度もありませんでした。洗礼を受けた報告をした時の様子で、どれ程望んでいた事だったのかと気づかされました。彼らにとっては正に、新しく「子どもが生まれた」時の喜びとある意味同じなのだとも感じました。

私は子どもの頃に教会学校に通って聖書の勉強をした経験もなく、現在においても日々の忙しさにかまけて不勉強な人間ですので、教会でのお話やお説教などでの疑問は、夫であるジェームスに先ずは相談しています。そしてある程度私が理解出来るだけの答えを見つけてくれます。「隣人を自分のように愛しなさい」とても難しい教えの一つですが、彼とその家族は「人を許す」という事でその難しい教えに忠実に生きていくように私の目には映ります。

私の信仰生活を語る時にやはり欠かす事のできない人がいます。紋別幼稚園という職場で六年間一緒に過ごしていた阿部芳克司祭ご夫妻で

子どものために一生懸命働くことを通して、神様に仕える者としてどう生きるのかという事を身をもって示してくださり、少なからずの自覚や勇気を与えてくださったと大変感謝しています。ジェームス・エリックソンという人と一緒に変わつたことの一つにクリスマスは、異国の地でホームシックにならぬよう、少しでも故郷カナダでの過ごし方に近づけようという「形」から入ったように思います。しかし何年もクリスマスを過ごし続けているうちに、もっと大事な事に気づかされます。我が家では降臨節に入ると同時に家中がクリスマスデコレーションされますが、それは見た目の準備よりも、イエス様を迎える心の準備をするという事でした。家の中ではその季節にあった讃美歌を歌ったり聞いたりすることが多くなり、そして降誕日を迎えると一気に喜びに満ち溢れるのです。一般の家庭では降誕日を過ぎるとクリスマスは終わり、お正月の準備に入る日本ですが、エリックソン家では一二日間のクリスマスが始まりなのです。クリス

チャンホームで生まれ育った夫が幼少の時から自然に身につけた信仰には到底追いつけないし真似もできませんが、神様がこの世に救い主を与えてくださった事に感謝し賛美することを、何よりも大事にしている事は側にいていつも感じます。

洗礼を受けて早や二〇年。私自身は、思いも言葉も行いもクリスチャンとしてはまだまだ未熟でお恥ずかしい限りですが、それ故とても大事にしている事があります。それは聖歌を心を込めて丁寧に歌うという事です。何故なら、聖歌の歌詞は自らでは口にすることができない大切なこと全てが記されていると感じるからです。その歌を一生懸命に考えながら「賛美すること」でしか私には証しができるせん。来年で結婚三〇年を迎えます。「神様を賛美することが大好きだ！だから教会に行くんだ！」と胸を張って言う夫。そのような彼の側で、いつか同じように神様を崇めることができるようになりたいと願っています。主に感謝。

感謝 北海の光献金(敬称略)

常置委員会報告

第二一回 一〇月四日

《協議事項》

- 一、第八〇(臨時) 教区会に關する件
- ・ 聖餐式式典長を池田亨司祭に依頼することとした。
- ・ 献金は宣教献金とすること

とした。

二、第八一(定期) 教区会議案に關する件

・ 常置委員会より提出の議案について確認した。

三、二〇二二年度教区会計予算に關する件

・ 各教会より回答のあつた奉獻額に基づき予算編成すること

ととした。

四、信徒代議員学習會に關する件

・ 学習會の進め方について検討した。

五、教区修養會開催予定に關する件

・ 一二月四日開催予定の教区修養會について内容説明を受

池澤 郁子(東京都)



主教室より

一〇月二四日は深川聖三一教会の巡回でした。その主日礼拝の福音書はマルコ一〇章四六節以下の「盲人バルティマイの癒し」。これまで何度も読んだ奇跡物語です。毎回読むたびに感動します。「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と大声で叫び続けるバルティマイ。彼の必死で一途な願いに心を揺さぶられます。そして、その声に、立ち止まるイエスの優しさ。「何をしてほしいのか」というイエスの問いかけにも深く考えさせられます。

とめなかつた箇所にくぎ付けになりました。それは、「安心しなさい。立ちなさい。お呼びだ」(四九節)という箇所。主が、「あの男を呼んで来なさい」と言われ、弟子がだれかそこにいた人がバルティマイのところに行つて呼びかける言葉です。バルティマイはまだイエスから離れたところにいます。「うるさい、黙れ!」とまわりの群衆から叱りつけられているバルティマイに、「安心しなさい。立ちなさい。主がお呼びだ」と言った人がいたということ。「安心しなさい!」は、「勇気を出しなさい」とも訳せます。ここで大事なのは、その言葉は主イエスの言葉ではなくて、呼びに行つた人の言葉なのです。

勇気を出しなさい、安心しなさい。立ちなさい。イエス様があなたを呼んでおられるから。それは、「バルティマイ、勇気を出して、安心して、自分の弱さ、悲しみ、苦悩などなんでもイエス様にさらけ出してもいいんだよ。あなたをお呼びなんだから」ということ、そして、この声でバルティマイは上着を脱ぎ棄てて走り出し、イエスに出会うのです。

バルティマイに声をかける人、それは、私たち教会の一人ひとりではないでしょうか。「勇気を出して、安心して、イエス様に何もかも打ち明けてみたら?」と声をかけることは私たちの役割なのです。

主教 ナタナエル 植松 誠

堅信式受領

おめでとう

- 六、人事に關する件
 - ・ 上平更司祭は一〇月三十一日付で、新札幌聖ニコラス教会・札幌聖ミカエル教会副牧師の任を解き、十一月一日付で新札幌聖ニコラス教会牧師とするとの主教諮問に同意した。
- 帯広聖公会
- ナオミ 大村 恵子
- プリスキラ 山本 信子
- (一〇月三十一日)
- 北海道教区(第八〇) 臨時教区会―結果報告―
- 十一月三日(水)、札幌キリスト教会にて、聖餐式後、主教選挙のため臨時教区会が開催された。
- 主教候補者として大町信也司祭(北海道教区)、笹森田鶴司祭(東京教区)、卓志雄司祭(東京教区)、以上三名が推薦され、各候補者の履歴紹介の後、ただちに投票に入った。一〇回の投票により、聖職議員票、信徒代議員票、それぞれ三分の二以上の票を得た笹森田鶴司祭が当選。
- 今後の諸手續等に主の導きと祝福を祈りつつ、ここに報告いたします。
- (北海の光編集委員会)

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

二月八日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

- 司祭 岡村 国夫
- 一九五四年二月一日
- 司祭 N・D・スミス
- 一九八四年二月四日
- 司祭 ウォルター・デニング
- 一九一三年二月五日
- 司祭 W・D・エディ
- 一九八九年二月五日
- 司祭 木村 光二
- 一九七九年二月九日
- 伝道師 北野 幸太郎
- 一九五七年二月一日
- 伝道師 津田 四郎平
- 一九一三年二月一日
- 司祭 大井 浅吉
- 一九二五年二月二〇日
- 執事 前川 修
- 一九四八年二月二三日
- 伝道師 永久保 秀二郎
- 一九二四年二月二四日
- 司祭 荒木 蕃三
- 一九四八年二月二四日
- 司祭 大矢 敬香
- 一九四二年二月三〇日



▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

私たちの教会では毎月、月初の主日に誕生会を開いています(祝会はコロナ禍の今はナシ)。一〇月三日の聖餐式後も誕生会が行われ、誕生者はそれぞれ順番に感謝のスピーチを述べました。最後のスピーチは委員の及川由美子姉でした。

ここで衝撃的な報告が、「私達夫婦は近々埼玉の娘の所に移住します」。一瞬礼拝堂を異様な沈黙と動揺が襲いました。でも今後の人生を考えての選択だったのでしょうか。ご家族に囲まれたお幸せを祈るばかりです。

誕生会後、教会委員会が開かれ、各部から報告が。総務部からは、及川由美子姉が担当していた仕事の詳細が説明

され、その範囲の広さと量に圧倒される中、皆で少しずつ分担していくことが確認されました。

頌栄保育園、鳴海園長からは駐車場の擁壁、大規模修理と緊急見積の実施報告と、教会を含む建て替え問題も残された時間は少ないと指摘が。牧師館の老朽化による吉野司祭の転居も必須事項です。主よ、お導きを。

▽岩見沢聖十字教会

一〇月に入り随分と感染者が減少。これも普段の予防とワクチン接種の効果でしょうか。ワクチンを普及してくださった政府と行政、医療機関に感謝せずにはいられません。

五日、スポーツセンターにて二部構成の運動会。保護者は元より先生方も園児の成長に感動の連続。新任の先生も手応えを感じたようです。

一七日、池田亨司祭司式による収穫感謝礼拝。祭壇の前には姉妹達が野菜と果物を綺麗に備える。思わず写真を撮られる方も。礼拝後、集合写真を撮り、恵みに感謝しました。

▽小樽聖公会

三月一二日に逝去されたパウロ坂牛正志さんの納骨式が、一〇月二二日に最上の小樽中央墓地で行われました。前日からの強い風と雨が続いていましたが、式の前には幾分おさまり、無事に納骨を済ますことができました。

昨年から礼拝以外のプログラムはほとんどできずにいましたが、一二月下旬には教会を会場にして地元小樽のミュージシャンによるオンライン併用でのクリスマス・ジャズコンサートの開催を企画中で、教会を広く知っていただける機会になることを願っています。

▽新冠聖フランシス教会

礼拝堂後ろのベストリーの隣の部屋は納戸として使われており、様々なものが雑然と置かれていました。過日、佐々木泰子さんと下川恵子さんが小竹国昭総務委員さんの立会いの下、綺麗に整理してくださいました。その上で、不要と思われる物を再確認して、業者さんに廃棄物として処理してもらいました。多少経費のかかることではありましたが、

公 示

救主降生2021年10月24日

日本聖公会北海道教区

主教 ナタナエル 植松 誠

以下の人事異動を発令します。

司祭 ノア 上平 更

2021年10月31日付で、新札幌聖ニコラス教会及び札幌聖ミカエル教会副牧師の任を解き、11月1日付で、新札幌聖ニコラス教会牧師に任ずる。

司祭 コルベ 下澤 昌

2021年10月31日付で、新札幌聖ニコラス教会管理牧師の任を解く。

以上

が、カーペットも敷かれてスツキリしました。ストーブに火が入り、収穫感謝礼拝を迎えると降臨節も間近となつてきます。

▽帯広聖公会

遥か日高山脈に冠雪を確認できる季節となりました。幼稚園での収穫感謝に続き、一七日、大地の恵みと共に収穫感謝礼拝を行いました。三一日、待望の植松主教巡回がありプリスキラ山本信子姉、ナオミ大村恵子姉の堅信の恵みにあずかることができました。コロナウイルスの感染状況ですが、十勝では二〇日間、新たな感染者は発生し

▽稚内聖公会

一〇月九日(土)、永谷司祭による司式・説教での聖餐式でした。合わせて二人の礼拝でしたが、説教のなかでのみ言葉の分かち合いはお互いに言葉を交わしながら行われたり、イエスさまと天の会衆と一緒にあることにも感謝しながら、とても温かみのある礼拝でした。寒さも日ごとに増し、一七

日には初雪を観測。教会の冬支度の準備も進められています。

一月一七日には植松主教様の巡回が予定されています。おそろく最後の巡回、安全にお越しいただけるようにお祈りしています。

▽札幌キリスト教会

緊急事態宣言の解除後、

一月三日より公開の礼拝、同時に各グループの活動を再開しました。集会、講演会も多く開催され、久しぶりに教会に多くの方々が集っています。三日、マリヤ津田フユ子さんがご逝去。魂の平安をお祈り致します。一七日には、子どもたちが祭壇に収穫物を捧げて行われた収穫・勤労感謝礼拝の祈りと、高齢者の祝福の祈りが捧げられました。礼拝後の収穫物即売会は大盛況でした。皆さんの笑顔が再び教会内に溢れています。

▽札幌聖ミカエル教会

一月一〇日、宣教七〇周年記念礼拝を行う。本州から駆けつけて下さった元寮生の方もあり、子どもからお年寄りまで百名で祝いの日を迎える。説教者の植松主教様から

は、ミカエルが当時の青年たちの祈りと情熱が教会の下地になり、次の世代に受け継がれていることが教会の柱になつていくとの想いが伝えられ、大きな励みとなりました。幼稚園の幼保連携型認定こども園への移行も来年に控え、

七一年目の宣教に向かって祈りを深めました。この日を覚えて祈り支えて下さった皆さまに感謝いたします。五月から副牧師であった上平司祭がニコラス教会の牧師就任に伴って月末で離任、これまでのご奉仕に感謝いたします。

▽新札幌聖ニコラス教会

教会の垣根の蔦も紅葉を終えて冬支度を開始。三日に少し早い収穫感謝の礼拝を、横山司祭と共に捧げます。捧げられた収穫物は、礼拝後のミニバザーでみんなですしずつ分かち合った。一〇日は下田信徒奉事者の司式でみ言葉の礼拝をお捧げする。予定外のハプニングもあったが、テゼの歌と共に祈りの時を楽しんだ。今月一杯で、下澤司祭が管理牧師としてのお働きを終えられる。四年間のお導きに感謝。

▽苫小牧聖ルカ教会

一月三日、ルカ高橋賢司さんの初陪餐の日。主に感謝！

堅信式は二月二四日のイブ礼拝時の予定です。二人のお子さんも礼拝のお手伝いをしてくださっています。

一日、神戸教区主教小林尚明師が船員奉仕会を訪問されました。長年ソーセージ作りで活躍した燻煙室を撤去し、幼稚園の物置を設置する事になりました。一七日の収穫感謝の奉献先は、保護猫の「猫の暮れ里」、子ども食堂「木と風の香り」、ファミリースポーツのあ(飯野司祭ご夫妻の働き)に捧げられました。

▽函館聖ヨハネ教会

一月一〇日(日)午後一時から三時まで、ミニバザーとジャズコンサート、並びにオープンチャートを開催しました。

雨の心配がありました。風がやや強かつたくらいでした。常連のお客様からは、「焼きそばはないのかしら?」という質問を受けました。コロナ禍で縮小している旨をお話すると、「来年こそは是非と

もやってほしい」とのご要望をいただきました。教会でのバザーを楽しみにしている地域の方がいらっしやることを実感しました。

婦人会の手作りケーキも売れました。前回より参加人数は少なかったものの、ゆったりとした空気の中で実施することができ感謝です。

コロナの感染者が激減している昨今、教会を訪れる観光の方々も徐々に増えてきています。対策を怠ることなく、第六波を封じ込められればと思います。

▽平取聖公会

各教会にもお知らせされていることと思いますが、一月一日から一月二八日まで平取町立二風谷アイヌ文化博物館に於いて、バチラー宣教師に関する特別展が開催されています。去る一日(月)午前、帯広聖公会の一名の教友のみなさまがご訪問くださいました。殊に寺本司祭ご夫妻はかつて当地におられましたので、懐かしさも一入のことと拝察いたしました。

また、一七日(日)の午後には「アイヌ語教室」のメン

バーのエカシとフチたちが、初めて訪問くださいました。

▽紋別聖マリヤ教会

一月に入り山々は紅葉が進んでいる模様ですが、夏の雨不足が秋の長雨としてぐずついた天候が続いております。

二日、午後二時から植松主教司式による聖餐式。翌三日の網走聖ペテロ教会宣教一三〇周年記念礼拝が行われるための繰り上げ礼拝でした。

残念ながら、内竹兄はコロナワクチン接種の副反応が強く出てしまったため欠席されました。多くの教会で礼拝ができない中、小さな群れの当教会は大きな群れの教会の分まで祈りを合わせております。

▽有珠聖公会

一月二四日、収穫・勤労感謝礼拝。赤く色づいたツタの葉でチャンセルが彩られ、地元産のたくさんの野菜と果物が捧げられました。

コロナが落ち着きを見せているので、礼拝後にしばし歓談の時を持つことができますようになっています。バチラー

夫妻記念室の開館プログラムも一年の働きを終えました。昨年に続きコロナの影響で来館者は減っていますが、今年も尊い奉仕によってその働きを続ける事ができた事に感謝します。

▽留萌キリスト教会

雨が多かった一〇月の留萌管内は気温が高めで霜が遅く、秋冬野菜の成長が順調でした。

一七日、収穫感謝礼拝と全逝去者記念式を行いました。

植松主教様の定年退職前の最終巡回日となったこの日、久しぶりにお昼の食事を共にしました。大きな数の子と鰯の甘露煮が入った留萌らしいお弁当の蓋を開けて歓声を上げていただけ、皆も嬉しいひと時でした。二五年前の引越の際の思い出話がとても懐かしく思い出されて、一気に時間旅行をしたようでした。お恵みに感謝いたします。

▽室蘭聖マタイ教会

少ない信徒の教会でも礼拝を維持するための奉仕を欠かす事は出来ません。器用な田中兄は墓地の汚れた墓碑をきれいにしてくださいました。

その他の兄弟姉妹も仕事を分担して礼拝を守っています。

第二主日、松井司祭により礼拝後聖書の輪読解説付きでした。その後委員会で二月のXマスの予定他で中身ある話し合いがなされました。第四主日は大町司祭による礼拝で

感銘深い説教でした。一月三日の臨時教区会には田中姉が出席します。山田兄より自家製の美味しいぶどうが届けられました。

▽北見聖ヤコブ教会

礼拝が司祭による聖餐式のみとなった北見ですが、一人一人の賜物が活かされ、教会をお守りしています。奏楽、聖書朗読、ヒムプレーヤー、

会計、司会、礼拝日誌、誕生ハガキ、連絡、送迎その他多くのご奉仕で互いに支え合っています。先日は高橋農夫也さん・玲子さんご夫妻が、葡萄棚の所の草取りと肥料としての糠時き作業をしてくださいました。来年も豊かな実りがあるでしょう。一月七日は逝去者記念礼拝・収穫感謝礼拝です。教会前のプラタナスの道は落ち葉の舞踏場です。

▽網走聖ペテロ教会

手袋、帽子を身につけて歩く人が目につくいよいよ冬支度の季節です。ペテロ教会一三〇周年を迎え、三日主夫妻が来られ、大阪から札幌紋別、市内から一つ所に集まり礼拝を献げ、一三〇年の歴史を画像で振り返り、一人一人思い出を語りました。子ども達の歌声となごやかな食事の後墓地にて植樹。墓地入口に愛する兄妹を見守ってくださいるようにヒバの木とつじを植えました。沢山の方の思いと苦労と希望で一三〇年を迎えました。これからの歩みに主の導きと祝福をお祈りします。

▽深川聖三一教会

一〇月三日教会委員会、教会報を全員で発送。東北教区定年退職の越山健蔵司祭、泉夫人礼拝出席、一同歓迎。一四日保育園職員会議、職員園児息災感謝。二一日道北分区教役者会、管理司祭永谷先生の配慮に感謝。二四日主教主巡回日礼拝。収穫感謝祭。ひでりの年にもかかわらず祭壇には初物が山となりました。主教練在任最後の巡回、一同

名残りを惜しむ。二九日保育園でハロウィン(諸聖徒日前夜祭)で仮装して楽しむ。お菓子の贈物もありました。横山明光司祭、由紀子夫人、孫の敢紀氏礼拝出席、一同歓迎。

▽聖マーガレット教会

一〇月二四日(日)収穫感謝の礼拝。前日に、紅葉したモミジ等を礼拝堂に飾る。今年の捧げ物の品々。お米、野菜はもちろん、鶏卵あり、半身の鮭トバがあったり、見た目も楽しい収穫感謝祭となる。

三〇日(土)、私たちの教会の設立期から八〇年代後半に渡って、オルガニストとして奉仕された松本襄二さんの逝去二年の記念式を行う。北海道放送のアナウンサーであった松本さん、放送関係者を含め、植松主教をはじめ教会関係者、総勢四〇名ほど集う。キリスト者として、信仰を証した生涯を偲ぶ。

▽旭川聖マルコ教会

緊急事態宣言も解除され、今月より奉献の時には短い聖歌を歌い、三一日から旧約聖書、詩編も加わり、婦人会のお仕事会も再開しました。

今後も「教区の指針」に基づき感染予防に取り組みます。三日は逝去者記念礼拝を行い、安らかな眠りにつけるよう祈りをささげました。一六日は、プリスカ平トミさんの埋骨式を行いました。二四日は収穫感謝礼拝と子ども祝福式を行い、秋の恵みに感謝をささげました。

保育園の運動会はコロナ対策のため二日、五日と二回に分散して行われ、元気に終えることができました。

▽今金インマヌエル教会

今年もインマヌエル教会に沢山のお届けカポチャが出現!! え!?何で!?磯野波平さんまで紛れ込んでいます!!そんなカポチャ達の写真を撮りながら微笑む来教者に、いくばくかの癒しを感じて貰えたなら幸いです。また藤井司祭と直さんには、遠路二度も境内地整備にお越しいただき、鬱蒼としていた垣根もスッキリ。防犯対策もレベルアップしました。一〇日と二八日に礼拝を守る事が出来たのも、遠路通ってくださる皆様のお陰と信徒一同感謝すると共に、道中の無事を心よりお祈りしています。